

# 第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和元年9月25日(水) 第5校時  
 対 象 第2学年1組 32名  
 学校名 杉並区立浜田山小学校  
 授業者 主任教諭 鈴木 加代子  
 会 場 2階 2年1組教室

1 単元名 「ふたりはシリーズ」の本を読んで、お気に入りの話を紹介しよう。  
 『お手紙』

## 2 単元の目標

- 自分のお気に入りの話を選び、あらすじや好きな場面を紹介することができる。
- 物語の場面の様子に着目して、登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる。

## 3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の中における主語と述語の関係に気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。</li> <li>・場面の様子や、登場人物の行動や会話をもとに気持ちの変化に気付き、想像を広げながら読み深める。</li> <li>・自分の思いや考えが明確になるようにして、手紙や紹介カードを書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お気に入りの話を紹介するという見通しをもった上で繰り返し物語を読み、楽しもうとしている。</li> <li>・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとしている。</li> </ul>
学習活動に則した評価規準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 興味をもってさまざまな話を読み、紹介カードを書くことができる。</li> <li>② 「ふたりはシリーズ」からお気に入りの話を紹介することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① あらすじを一文で表し、内容の大体を捉えることができる。</li> <li>② 二人の悲しい気分を読み取って、手紙を書いている。</li> <li>③ がまくんに頼んだかえるくんの気持ちを読み取り、かえるくんに対して手紙を書いている。</li> <li>④ お手紙のことを言ってしまったかえるくんやそれを知ったがまくんの気持ちを読み取り、中心人物に対して手紙を書いている。</li> <li>⑤ 二人の幸せな気持ちを読み取り、がまくんに対して手紙を書いている。</li> <li>⑥ かえるくんとがまくんの幸せな気持ちについて考え、二人の関係や人柄をとらえた手紙を書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「ふたりはシリーズ」の紹介カードを書くことを知り、楽しんで読み聞かせを聞くことができる。</li> <li>② 本文の内容に即した初発の感想を書くことができる。</li> <li>③ お手紙を読んで、自分が不思議に思ったことを考えることができる。</li> </ul>

#### 4 単元について

本教材は、五つの場面から構成されている。それぞれの場面の人物の行動を中心に読むことで出来事の順序を捉えやすい物語である。また、主がまくんとかえるくんの二人の行動と会話によって物語が展開しており人物の様子や気持ちを想像させやすい。挿絵が効率的に配されており、物語の出来事の大まかな流れを捉えたり、それぞれの場面の人物の様子を想像したりすることに役立てることができる。

#### 5 小中一貫教育の視点に立った指導系統

##### (1) 指導内容の「系統性」

小学校	
第1学年	人物の行動を中心に想像を広げながら読む。
第2学年	人物の行動や会話を中心に、想像を広げながら読む。
第3学年	人物の行動や会話を場面ごとに捉え、人柄や気持ちを考えて読む。
第4学年	場面の移り変わりに注意しながら、人物の性格や気持ち、情景などについて読む。
第5学年	優れた表現によって、直接書かれていない人物の深い心情や性格について想像する。
第6学年	人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、人物の生き方について考えをまとめる。
中学校	
第1学年	場面展開や人物の描写に注意して読み、心情の移り変わりを捉える。
第2学年	人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈する。
第3学年	文章の種類を踏まえて、倫理や物語の展開の仕方などを捉える。

##### (2) 指導法の「連続性」〈小中一貫教育タブレットパソコン活用研究校としての取組〉

活用形態	利用アプリ・概要
 教師に1台の タブレットパソコン	「パワーポイント」  ・挿絵を取り込み、あらすじを確認しながら内容の大体をつかむ。

#### 6 学習指導計画（全11時間）

次	時数	学習内容	・指導上の留意点 ☆評価規準（評価の方法） ◆ICT機器の活用	指導案改善の視点		
				主	対	深
第一次	第一時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">           学習の見通しをもとう         </div> ・「ふたりはシリーズ」を読み、その中から気に入ったお話をを選び、紹介カードを書くことを伝える。 ・「ふたりはシリーズ」の読み	・物語への関心をもたせ、読みの意欲を高める。 ・がまくんとかえるくんの関係性をつかませる。 ・かえるくんやがまくんの優しさ			

	聞かせを聞く。 ・感想を伝え合う。	が分かる話や、ユーモアのある話を選んで、読み聞かせを行う。 ・「ふたりはシリーズ」の作品を並行して読んでいくことを伝える。 ◆書画カメラを活用し、挿絵を写しながら読み聞かせをする。 ☆【主-①】「ふたりはシリーズ」の紹介カードを書くことを知り、楽しんで読み聞かせを聞いている。			
第二時	お手紙を読んで感想を書こう。	・5場面に分け、がまくん、かえるくん、かたつむりくんの登場を確認する。 ・お気に入りのところと、そのわけを中心に書かせる。 ☆【主-②】本文の内容に即した初発の感想を書いている。(ワークシート)			
第三時	「お手紙」のあらすじをつかもう。	・主語と述語を確認しながら、登場人物の会話を整理させる。 ・挿絵の順序を確認する。 ◆最初と最後の二人でお手紙を待つ挿絵を並べて比較させる。 ・「～が～するところ」という一文を挿絵に付けさせる。 ・中心人物の気持ちの変化をおおまかに捉えさえ、二人が不幸せな状態から幸せになったことに気付かせる。 ・気持ちが変わるきっかけになった出来事を考えさせる。 ☆【思・判・表-①】あらすじを一文で表し、内容の大体を捉えることができる。(発言、ワークシート)			

<p>第二 次</p>	<p>第四 時</p> <p>本 時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">       自分がふしぎに思ったことを考えよう。     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・前時を振り返り、自分が考えてみたいことや不思議に思ったこと(問い)を見付ける。</li> <li>・自分が考えたい問いを1つ選んで、ノート・短冊の右半分(掲示用)に書く。</li> <li>・全体で交流する。</li> <li>・自分の問いについて考える。</li> <li>・学習のまとめをする。</li> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆挿絵をスライドショーで提示しながら、物語の大まかな流れを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かえるくんやがまくんの行動や会話で気になるところや不思議なところに着目させる。</li> <li>・教科書の文に印を付けたり書き込みをしたりしながら考えさせる。</li> <li>・出てきた問い(短冊)を整理しながら、場面ごとの挿絵に合わせて貼る。</li> <li>・問いの見付からない児童には、友達の問題を参考にさせたり、その中から選んだりしてよいことを助言する。</li> <li>・次時から、皆が考えた問いをもとに学習課題を設定して場面ごとに読み深めていくことを知らせる。</li> </ul> <p>☆【主-③】お手紙を読んで、自分が不思議に思ったことを考えることができる。(短冊)</p> </div>			
	<p>第五 時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">       二人とも悲しい気分になったのはどうしてなのか、考えよう。     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いから読みの課題を立てていく。</li> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・1の場面(6ページ1行目～8ページ最後)の音読をする。</li> <li>・がまくんが不幸せな理由を考える。</li> <li>・かえるくんが不幸せな理由を考える。</li> <li>・ワークシートに考えを書き、話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆デジタル教科書で本文を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵や叙述から、どんな顔をしているか、どんなことを言っているか、話し合う。</li> <li>・がまくんとかえるくんの悲しい気持ちを分けて考えさせる。</li> <li>・かえるくん、がまくんのどちらにお手紙を書くか選ばせる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文の主語を確認しながら、役割音読をする。(男女別、3人ペア、代表ペア)</li> </ul>			

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心人物に言ってあげたいことを手紙に書く。</li> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙には、相手への共感と自分の思いを書かせる。</li> </ul> <p>☆【思・判・表-②】二人の悲しい気分を読み取って、手紙を書いている。(発言、ワークシート)</p>				
	第六時	<p>お手紙をたのんだあいては、かたつむりくんでよかったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・2の場面(9ページ1行目～10ページ最後)の音読をする。</li> <li>・かえるくんががまくんに対してお手紙を書こうと思った気持ちを読み取る。</li> <li>・かえるくんがかたつむりくんにお手紙を頼んだときの気持ちを読み取る。</li> <li>・ワークシートに考えを書き、話し合う。</li> <li>・かえるくんに言ってあげたいことを手紙に書く。</li> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文の主語を確認しながら、役割音読をする。(男女別、3人ペア、代表ペア)</li> </ul> <p>◆デジタル教科書で本文を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵や叙述から、どんな顔をしているか、どんなことを言っているか、考えさせる。</li> </ul> <p>☆【思・判・表-③】がまくんに頼んだかえるくんの気持ちを読み取って、かえるくんに対して手紙を書いている。(発言、ワークシート)</p>			
第二次	第七時	<p>かえるくんは、がまくんに手紙を出したことを言ってしまうと本当によかったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・3と4の場面(11ページ1行目～17ページ1行目)の音読をする。</li> <li>・かえるくんが手紙を出したことをがまくんに伝えたときの気持ちについて考える。</li> <li>・手紙の内容を知ったがまくんの気持ちについて考える。</li> <li>・ワークシートに考えを書き、話し合う。</li> <li>・かえるくんかがまくんに言ってあげたいことを手紙に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文の主語を確認しながら、役割音読をする。(男女別、3人ペア、代表ペア)</li> </ul> <p>◆デジタル教科書で本文を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵や叙述から、どんな顔をしているか、どんなことを言っているか、考えさせる。</li> </ul> <p>☆【思・判・表-④】お手紙のことを言ってしまったかえるくんやそれを知ったがまくんの気持ちを読み取り、中心人物に対して</p>			

	<p>書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<p>手紙を書いている。(発言、ワークシート)</p>				
第八時	<p>がまくんが一番うれしい気持ちになったところは、どこだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・5の場面(16ページ5行目～17ページ9行目)の音読をする。</li> <li>・「とてもよろこびました」という文から、がまくんがどのように感じているか想像する。</li> <li>・前時までの学習を振り返り、がまくんが、どんな出来事によってしあわせになったのか考える。</li> <li>・ワークシートに考えを書き、話し合う。</li> <li>・がまくんに言ってあげたいことを手紙に書く。</li> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文の主語を確認しながら、役割音読をする。(男女別、3人ペア、代表ペア)</li> <li>◆デジタル教科書で本文を提示する。</li> <li>・挿絵や叙述から、どんな顔をしているか、どんなことを言っているか、考えさせる。</li> <li>・がまくんとかえるくんの幸せな気持ちを比較して考えさせる。</li> <li>☆【思・判・表-⑤】二人の幸せな気持ちを読み取って、がまくんに対して手紙を書いている。(発言、ワークシート)</li> </ul>			
第九時	<p>がまくんとかえるくんのしあわせは同じだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・前時までに学習したがまくんとかえるくんの幸せな気持ちを比べて考える。</li> <li>・がまくんとかえるくんの関係や人柄について話し合う。</li> <li>・第四時で考えた個人の問いに対する答えを書く。</li> <li>・物語全体を振り返り、中心人物に言ってあげたいことを手紙に書く。</li> <li>・友達の手紙のいいところや共感するところを考えながら聞くように伝える。</li> <li>・学習の振り返りと次時の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人が感じている幸せな気持ちについて、がまくんとかえるくんに分けて考えさせる。</li> <li>◆デジタル教科書で本文を提示する。</li> <li>・「ふたりはシリーズ」のほかの話にも触れ、がまくんとかえるくんの関係や人柄を考えさせる。</li> <li>・友達の手紙のいいところや共感するところを考えながら聞くように伝える。</li> <li>☆【思・判・表-⑥】かえるくんとがまくんの幸せな気持ちについて</li> </ul>			

		認をする。	て考え、二人の関係や人柄を捉えた手紙を書いている。(発言、ワークシート)			
第三次	第十・十一時	「ふたりはシリーズ」から選んだお話の紹介カードを書こう。				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・自分が気に入った話について紹介カードを書く。</li> <li>・あらすじを一文にまとめる。</li> <li>・お気に入りの場面を選び、そのわけを書く。</li> <li>・絵やしかけを入れながら、カードをつくる。</li> <li>・紹介原稿をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並行して読んでいたその他のシリーズ(「ふたりはともだち」「ふたりはきょうも」「ふたりはいっしょ」「ふたりはいつも」の中から気に入った話を選ばせる。</li> <li>・あらすじとお気に入りの場面、そのわけなどをカードに書くように伝える。</li> </ul> <p>☆【知・技-①】興味をもって様々な話を読み、紹介カードを書いている。(発言、観察)</p>			
	第十二時	「ふたりはシリーズ」から選んだお話を紹介しよう。				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを確認する。</li> <li>・お気に入りの話について紹介カードをもとに、紹介する。</li> <li>・友達の発表を聞いて、感想を伝えたり、「ふたりはシリーズ」の紹介されたお話を讀んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の紹介を聞き合い、いいところや共感するところ、読んでみたいと思うところを考えさせる。</li> <li>・一度読んだ話でも紹介を聞いた上で読んでみるように伝える。</li> </ul> <p>☆【知・技-②】「ふたりはシリーズ」からお気に入りの話を紹介することができる。(発言、紹介カード)</p>			

## 7 指導の手だて

### (1) 主体的な学び【学習過程の工夫】(◎が本時について)

○単元のまとめに「ふたりはシリーズ」の中のお気に入りの話を紹介するという活動を設定し、目的意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。

○学習の導入で、書画カメラを活用して「ふたりはシリーズ」の読み聞かせを行い、登場人物の関係性や物語の面白さを多面的に捉え、楽しく読書活動が行えるようにする。

◎自分で選んだ場面の中から、不思議に思うところや考えてみたいところに印を付けたり、書き込みさせたりすることを手掛かりにして、自分で考えたい問いを見付けさせることで、全体で読み深めていくための学習課題を設定し、学ぶ意欲や興味関心の向上につなげていく。

**(2) 対話的な学び【学習活動や掲示の工夫】**

- 教材との対話を中心に、児童と教師との対話、自己との対話、友達との対話、作者との対話など、さまざまな対話を毎時間設定し、思いや考えを言葉や文で表現させることで、思考が明確になるようにする。
- 個で考える時間、ペアやグループで話し合う時間を設定し、自分の考えをもって話し合いをすることで、自分の考えを明確化したり、広げたりできるようにする。
- ◎自分が選んだ一つの場面を取り上げ、個人の問いを短冊に文章化して書かせることで、思考を明確にする。また、短冊を挿絵に合わせて整理することで、だれがどんな問いを考えているのかを共有し、問いを見付ける手だてとする。

**(3) 深い学び【課題設定の工夫】**

- 登場人物の行動や会話に着目し、様子や気持ちについて想像を膨らませて読むことで、叙述に基づいた深い読みができるようにする。
- 「ふたりはシリーズ」の並行読書を行い、がまくんとかえるくんの関係性をさまざまな視点からとらえることができるようにする。さらに、友達のお気に入りの話の紹介を聞くことで、もう一度読んでみたいという気持ちや自分とは異なる視点で物語を楽しむよさに気付くことができるようにする。
- ◎かえるくんとがまくんのしたことや会話文の中から問いを考えさせることで、場面の移り変わりや中心人物の行動、会話に着目した読みができるようにする。

**8 本時の学習（4/12時間扱い）**

**(1) 本時の目標**

お手紙を読んで、自分が不思議に思ったことを考えることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

**(2) 本時の視点**

	設定した視点	捉え方と具体的な手だて
主体的な学び	 興味や関心を高める	自分で考えたい問いを見付け、学ぶ意欲を高める。 ① 場面ごとにまとめたあらすじを提示して、話の全体から自分が考えたい場面を選ぶ。 ② 不思議に思うところや考えてみたいところに印を付けたり、書き込みをさせたりする。
対話的な学び	 思考を表現に置き換える	考えたことを自分の言葉で表現し、自分の考えをまとめ、明確にする。 ① 自分の問いを短冊に書き、挿絵に合わせて貼る。
深い学び	 思考して問い続ける	中心人物の行動や会話に着目して読む。 ① かえるくんとがまくんのしたことや会話文の中から問いを見付ける。

(3) 本時の展開

	学習活動	・留意点 ☆評価規準（評価方法） ◆ICT 機器の活用	設定した視点 (視点に迫る手だて)
導入 8分	1 前時の学習内容を想起する。 2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             自分がふしぎに思ったことを考えよう。           </div>	・場面ごとにまとめたあらすじと挿絵を掲示しておく。  ◆挿絵をスライドショーで提示しながら、物語の大まかな流れを捉えさせる。	 興味や関心を高める
展開 32分	3 自分で問いを見付ける。 ・自分が気になる場面を選んで音読する。 ・自分が不思議に思ったことやもっと考えてみたいことを見付けて、印を付ける。 ・自分が考えたい問いを1つ選んで、ノート・短冊（掲示用）に書く。 4 全体で交流する。 ・自分の問いを発表する。 ・同じ問いや同じ場面を考えた友達を知る。  5 自分の問いについて考える。 ・答えの見つけ方を考える。 ・考えるための手掛かりや根拠となる叙述（文や言葉）を見付ける。 ・考えがまとまったら、自分の答えをノートに書く。	・かえるくんやがまくんの行動や会話で気になるところや不思議なところに着目させる。 ・教科書の文に印を付けたり書き込みをしたりしながら考えさせる。 ・出てきた問い（短冊）を整理しながら、場面ごとの挿絵に合わせて貼る。 ・問いの見付からない児童には、友達の問いを参考にさせたり、その中から選んだりしてよいことを助言する。 ☆自分の問いを見付けることができている。【主体的に学習に取り組む態度】（ノート・短冊・発言）  ・叙述や挿絵、前後の場面、『ふたりはシリーズ』のお話などを手掛かりに問いを考えることを助言する。 ・短冊の左半分は、全体で読み深めた後に自分の問いを再考させて答えを書かせる。	 思考を表現に置き換える。   思考して問い続ける。  
まとめ 5分	6 学習のまとめをする。 ・同じ問いに対する自分なりの考えを発表する。	・同じ考えや異なる考えを出させ、今後の読みへの関心を高めさせる。 ・自分の答えが見付からなかった問いについては、場面ごとの全体読みの中で考えていけばよいことを伝える。	

	<p>7 次時の確認をして、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時から、皆が考えた問いをもとに学習課題を設定して場面ごとに読み深めていくことを知らせる。</li> </ul>	
--	---------------------------	---	--

(3) 評価

お手紙を読んで、自分が不思議に思ったことを考えることができたか。

(4) 板書計画



### (1) 分科会提案・授業者自評

主体的な学びに迫る手だてとしては自分で課題をもち、それを解決していくために学級全体で読み進めていくように考えた。本時では自己との対話を通して、㊸や㊹の表記を使って自分の考えを明確化させた。中心人物の行動や会話に着目し、問いをもって読み進めていくことを意識させた。

2年生ということで、低学年なりの「学びの構造転換」を取り入れていくことに力を入れた。児童一人一人が問いをもつことができたが、交流の時間を取り入れたので時間が無くなってしまった。自分なりの答えをもつところまで授業内で行いたかった。「問い」という言葉に対しては、クイズを作る感覚で取り組んでいた児童もいたが、悩んでしまう児童もいたので、難しいと感じた。ICTの活用としては、内容確認のために使用したが、他に使い方があれば伺いたい。

### (2) 研究協議

問いを作る際に、叙述に即していなくてもよいのか。

読み込んでいく中や経験を基に問いを作っていたが、どの程度までの問いを認めるのか。

2年生→かえるくんやがまくんが主語になった問いであればよいこととした。

課題に対して軽重はつけないようにした。ただ、答えが見付からないものを問いにしている児童もいたので、どう捌いていけばよいのか迷った。読み進めていくうちに、ずれた問いを立てた児童は修正している様子だった。

問いに対する答えをすでにもっている児童が中にはいたが、それでもよいのか。

2年生→答えをもっている、もっていない、どちらもよい。これからの読みで答えをもっていければよい。

今回の授業では、自分が立てた問いと似ているかどうかで交流、分類をしたが、場面ごとに出てきた問いで分類してもよかったのではないかと感じた。

2年生→問いを価値付けたかった。問いが似ているかどうかだけでは分類が難しかったので、場面ごとに似ている問いを立てた児童を取り上げていく方がよかった。その方が児童の意見が活発に出てきたのかもしれない。

タブレットを使用するのは、2年生には難しかった。国語の授業におけるICTを活用場面を教えてほしい。

全体→低学年だから入力するのは難しいが、使えないから使わせないのはもったいない。㊸や㊹の箇所を全体で取り上げ、共有するときには活用できるのではないかと。

今回の授業における対話は、個人内対話であったので、分類は必要なかったのではないかと。

場面ごとに教師がより分けてしまってもよかった。

2年生→個々の問いを集約していくと、言葉は違えけれど、読みの柱になっていくのではないかと考え、今回の授業では問いを分類した。

分科会提案

授業者自評

児童の活動を  
引き出す問いの価値  
づけタブレットの  
活用

深い学びの姿

自分の問いを発信して、答えをどんどん解決していくほうがよいのではないか。解決できないことをみんなで解決していくのもよいのではないか。

問いに対する答えを見付ける手法や解決方法を見付けられない児童が多かったので、全体で問いをもたせて読み進めていく活動を通して、教科書の叙述や友達に聞くという手法を見つけていけるのではないか。

この先の授業展開が知りたい。読み深めていくうちに、改めて問いを修正することもあるのか。答えをどのように解決していくのか。  
2年生→自分なりの答えを短冊に書き、全体で読み深めたあとに、答えを赤字で書き足したり修正したりしていく。

### (3) 指導・講評 放送大学教授 中川一史先生

今回の授業は他の学年ではどうしていくのか考えるよいきっかけとなったのではないかと感じた。

自己の題材に対する対話から他者への対話にどうつなげていくか考えていきたい。

疑問や不思議に思ったことだけで問いを作ることができるとうよかった。どうしてこの課題が一回で子どもたちに落ちなかったのかを考えて、課題や発問の仕方を工夫したい。

問いを見つける機会を作ることが大切で、国語だけではなく全教科において繰り返し、問いをもたせていくと力がついてくる。

全体で想起して例を示すことで、短冊に書きやすくなった。ぶれずに課題に取り組むことができた。

話す、聞くことがしっかりとできている学級であった。

自分の問いがどこの場面のことなのか考えたり、似ている問いを見付けたり、判断する経験値を高めていくことが大切である。課題に対する答えが変わることを自覚したり、修正させたりすることも大切である。良い問いをつくることができるようになるためには、何度も経験させることが必要である。ちょっとした疑問から読み取りを深めていくうちに新たな問いを立てる力も付いてくる。

問いの軽重は教師側が付けていく。確かめないといけない、友達の間いや考えと本文との往復できるような、本質に迫る問いを取り上げていく。からみとゆらぎが対話的な深い学びのきっかけとなる。確認と整理(分類)をどう子どもに返すかが重要である。

言語活動に絡めていくとよい。

映像より：2年生「お手紙」

かえるくんやがまくんの様子や心情がわかるようにカルタ作りをする。意見の交流が活発になるものを教師側が選択して取り組ませている。

ICT活用のメリットとの1つとしては、原型、時間を変えることができる場所である。ICTが原型を超えられているかどうかという視点で活用を考えるとよい。ワークシートや短冊を使う良さもあるので、デジタルとアナログの両方をどう絡めていくかが大切である。

映像より：1年生「くじらぐも」

デジタル教科書を使って確認するとき本文にラインを引く。挿絵を拡大していき、空に上がっていく様子を視覚的に感じさせて、主人公との同化を促す。

今後の授業  
展開

# 成果と課題

## <成果>

- ・かえるくんとがまくんの行動や言葉に着目させることで、物語を読み深めるための問いを作ることができた。
- ・挿絵を使ってあらすじを押さえ、スライドショーで見せることで内容の把握をすることができた。
- ・短冊を共有することで問いが見付けられない児童への手だてになった。



## <課題>

- ・問いの質をより深めていくために、友達の問いの内容について学級全体で考える時間を取ることが有効である。
- ・学びの構造転換を意識して授業の展開を作っていたが、国語のみならず他教科や学校生活など多くの場面で活用した取り組みを行っていく必要がある。

